

審議会会議録

1	会議の名称	平成27年度第2回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成27年10月30日 午後1時～午後4時10分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	富津市の今後の子ども・子育て支援について
5	出席者名	委員 井上久吏子、白井まり子、齋藤隆広、渡邊武雄、能城美佐子、 鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、渡辺 務、菊池定勝 事務局 磯貝健康福祉部長、下間子育て支援課長、小野田課長補佐、 鈴木子ども家庭係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括 保健師、学校教育課細谷指導主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成 27 年度第 2 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・鈴木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立
事務局・鈴木	<p>本日、富井委員、木下委員、相澤委員の 3 名が欠席ですが、12 名の委員の方が出席されており過半数を超えておりますので、子ども・子育て会議設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・鈴木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第 23 条の規定により、会議は公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人はおりません。</p> <p>それでは、議事については、会長に議長をお願いいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議録署名人
渡辺会長	<p>本日の会議録署名人を指名いたします。会議録署名人は、岡村委員を指名いたします。</p>
渡辺会長	<p>○市民委員会について</p> <p>議題に入る前に富津市民委員会に子ども・子育て会議委員が出席しましたので、経緯などについて事務局から説明をお願いします。</p>

事務局・下間	<p>参考資料 1、2 について説明。</p>
渡辺会長	<p>今、課長から説明がありましたが、ここで出席されました鈴木副会長、岡村委員から感想や講評をいただけたらと思います。</p> <p>これについて、もう少し経緯をお話ししますと、市民委員会の第 3 部会というところで、子ども子育てを議論しています。そこでは、無作為に選ばれた市民の方が出席していて私達の子ども・子育て会議と情報を共有すべきではないかという意見をいただきました。そして、市民委員会の方からこちらの会議にも出席して欲しいと声がかかりました。ただ、それは市民委員会の 10 日前位だったので、私の判断で、3 つの部会のリーダーの方に声をかけて、都合のつく方ということで、松倉さんは都合がつかなかったもので、鈴木副会長と岡村さんと私の 3 人で出席しました。</p> <p>その時の感想なり報告なりを仰って頂けたらと思います。</p>
鈴木副会長	<p>今説明のありました、市民委員会は皆さんでどれくらいご存知でしょうか。</p> <p>こちらも向こうのことがわかっていなくて、向こうもこちらのことわかっていないという状況です。市民委員会は、市の財政が今芳しくないのも、何とか事業を見直して、市民の声を反映させてやっていこうよというものです。そして、市民に無作為で委員になりませんかと声掛けしたところ、80 人位の方から応募があって、その 80 人が 4 つのグループに分かれて課題を分け合って、議論しているところです。</p> <p>この子ども・子育て会議は、法律に基づいた目的を持った会議なので、専門の人や実際の仕事の中で役割</p>

岡村委員

をもった方や市民から公募された方もいらっしゃいますが選ばれた人で構成されています。

市民委員会は、一般の方が参加され、色々な行われている事業について、改善すべきだとか継続すべきだとか議論されています。こちらの会議も公開していますが市民委員会の委員さんからは知らなかったと意見がありました。同じようなことを両方で話しているならば、情報は共有した方がいいのではないかということでしたので、参加してきました。

市民委員会では、枝葉の議論がかなり多いなという気がしましたが、では、子ども・子育て会議でどのような議論をしてきたのかと考えてみると、前半はほぼ仕組みづくりに時間を取られてしまって、後半に具体的な富津市での子育て支援について議論を始め、やっと動き出したというところです。

ただやはり、大事にしたいところが、どういう願いを持って子ども子育てを支えていく仕組みを作るかということが大切だと思います。思想とか哲学をきちんと持ったうえで、じゃあ何が出来るかということが考えなくてはいけないと思います。

会議に参加した感想としては、子ども・子育て会議でやっていることを説明させてもらったので、理解して、信頼を寄せていただけたかなと思います。

私は初めてこの市民委員会に参加させていただいて、市民委員会の目的は、自分達で市のことを考える、役割分担を考えるという「考える」という形の会議だと思いました。皆さんの胸の中にたくさん要望があって、それについてたくさん意見を出し合って、すぐに結果を求めるといような会議に感じられました。でも皆さん一生懸命お話ししておられたので、大変参考

渡辺会長

にはなりました。また何か機会がありましたらこのような会議に参加したいと思います。

ありがとうございます。私からは、それぞれの会議で、立ち位置があると思います。市民から無作為抽出された方達の立場もあるし、それからこの子ども・子育て会議は、それぞれで子育てに実際に携わっている人達、現場に直面している人達の立場や立ち位置での考え方や意見というのもあると思います。これは、どっちが上とか下じゃなくて、それぞれにこんな考えもあるんだなという共有ができることが必要かなと思います。

このことのそもそもの発端は、私の個人的なブログを市民委員会の人が見たことからでした。そして、向こうから「皆さん出てください。」とお声掛けいただいたので、「ありがとうございます。ぜひ参加させていただきます。」ということになりました。

私達は私達で、自分達の思うこと、考えることやっていけば良いと思います。ですので、自信を持って発言していただきたいと思います。今2人からお話がありましたけども、私は、一緒に参加していて、2人に意見を言っていただくと、たいへん会議の中でも誇らしい気持ちで終始座らせていただいていた。そういう意味では皆さんも誇りを持って会議を進めていただければと思います。また、市民委員会のことも参考にさせていただいて、これからの議論に繋げていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。この議案はこれでよろしいですか。それでは議題に入ります。

3 議題

<富津市の今後の子ども・子育て支援について>

渡辺会長	富津市の今後の子ども・子育て支援について事務局から説明をお願いします。
事務局・下間	資料1について、説明。
渡辺会長	<p>○質疑・意見</p> <p>皆さん、何か質問等がありますか。このグループ討議の進め方についてですけど、今説明ありましたが、1時間の中で前半は引き続き色々な意見を出していただきたいと思います。後半の30分で仕分けをして、すぐに取り組んでいけるものと、中長期的に取り組むものの仕分けをするという作業だと思いますが、この意見はダメで、この意見は良いとかっていう類のものじゃなくて良いと私は思います。結論をここで出す必要はないので、色々な意見で「こんな意見やあんな意見もあります。」っていうことをある程度出していくということの認識でいいと思いますけど、皆さんいかがでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>それぞれのグループで、討議してもらいますが、やっぱりせっかく集まって会議しているので、何かすぐにやれそうなこと、こういうことは、すぐにやれるんじゃないかとか、ちょっと時間はかかるんだけど、コツコツやっていけば形になっていきそうだなっていうことを、限られた時間の中で議論を尽くせるとは思わないんだけど、何かそういう我々がこうやって集まって、みんなの意見を出し合ったっていう1つの成果みたいなものを、何か1つでも2つでも何かこんなことを取り組んでみないかっていうそんなことが出せるといいなと感じます。もちろん何でもかんでも出し</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>てくれてって意味で言っている訳ではありませんが、そういう思いで少し討議してもらえると良いのかなって思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>具体的なことが出せば、出していきたいっていうようなことですね。それでは、そういう流れでいきたいと思います。じゃあこれからは各グループに分かれて討議していきたいと思います。</p> <p><グループ討議></p>
<p>事務局・鈴木</p>	<p>それでは、皆さまお集まりになりましたので、引き続きお願いいたします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>グループ討議での結果についてご報告をお願いしたいと思います。まず、妊娠・マタニティ期からお願いします。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>私達は、第1回のグループ討議のまとめを見ながら聞いていただければと思いますが、ここでは仲間づくりと経済面の保障、そして生活・子育て環境という3つ挙げられているのですが、経済面の保障と生活・子育て環境の部分については、これ以上の話を進めることが、実はできませんでした。中長期的に検討をすることとして経済面の保障のこととか、病院について充実させていくということが書かれていますが、これは次回の委員さん達に課題としてもう一度検討をしていただきたいというところで、私達が話し合ったところは、仲間づくりというところです。仲間づくりは、グループで妊娠中にお母さん同士が交流できる場を作るということなのですが、それだけではなく妊娠中、これからお母さん・お父さんになる人達への個別的なサポートも富津市が充実しているというところをアピー</p>

ルすることができれば良いんじゃないかなという風に話が進みました。仲間づくりといったところでは、前回の話の中でも出てきていますが、すぐに取り組めるものとして「安心・安全メール」の活用というのが出ていますが、今現在、発信する内容が出産後の健診のことなどが発信されていて、マタニティのことについて発信できる情報が今無いってことです。出産後の健診に妊娠をしているマタニティ期のお母さんに来てもらって、子育て中のこととか、子どもが何か月になったらこんな様子だっていうようなことを体験しながら学んでもらえることと、保健師さんと栄養士さん等に相談があれば個別相談にも応じますというようなことで、基本的にはその健診を受ける子ども達・お母さん達を対象としているものを、マタニティ期に広げていったらいいんじゃないかという風な話が出ています。そのような形で仲間づくりをして、「安心・安全メール」の活用と、今ある「イクトモ」を活用して情報提供していけたらと考えています。

そして、まだまだちょっと皆さんにもご検討いただければと思うんですが、今現在、母子手帳を交付する時に個別の相談として離乳食のこととか、妊娠期の健康管理のこととかっていうことを30～40分、長い時には1時間位掛けて指導をして下さっているそうです。母子健康手帳は必ず取りに来るもので、ちょっとふざけたように聞こえるかもしれないんですけど、富津市として母子健康手帳をもらいに行くことについてネーミングして、富津市の名前を付けて、ただ単純に「交付されます」だけじゃなくて、そこでこのような個別の指導を丁寧にして下さっていますので、妊娠期の検診は病院のほうにお願いはしているものの、個別

渡辺会長
鈴木副会長

の手帳を受ける時に指導をされているので、マタニティ期の個別の指導とか相談体制が整っていて「子どもを産み、育てやすい富津」という形で、手帳をもらいに来ることについてネーミングしてみたらどうかというような案が出ましたが、どんなネーミングがいいかは、良い案が出てこなかったので皆さんのお知恵をいただきたいなというふうに思っております。

今まで妊娠期っていうと、お母さんが中心になったりするようなところですけど、夜に開催するようなお父さんに向けたマタニティ講座なんかも開ければいいんじゃないかということが出ました。

続きまして、未就園児のグループをお願いします。

未就園児のグループでは、行政の方で大きな柱として「出会い」、「コミュニティ」、「情報発信」という大きな柱をまとめとして整理して下さったので、そのところでもう一編、具体的にどんなことがやれるだろうかということを中心に話を進めてみました。

その中で、私からの提案で、皆さん面白がってくれたので、それを具体化していけたらいいなと説明させていただきます。現在、広報紙とかホームページを使って、情報発信をしています。なかなか情報が必要な人に充分に行き渡らないっていう現実があると思います。

広く色々な世代の方に関心を持っている人、持っていない人にと伝え方があって、また、今自分達が当事者として関わっていることに対して、伝えられる情報があったらいいなというので、今妊娠期の方からメールの配信というご提案がありましたが、今、皆さんにお配りしたのは、「子育て応援はがき」というものです。

お誕生おめでとうから始まって2歳の誕生日まで、

一枚のはがきを当事者に毎月届けるという試みです。これは私達が初めて考え始めたことではなくて、20年前位に岐阜県の市で始めまして、日本保育学会でその取り組みの発表があり、その市に視察に行き、是非取り組みたいと持って帰ってきたものです。ですが、なかなかそういう機会に恵まれませんでした。

その後、千葉県が次世代育成支援行動計画を作る時に自分も関わっていたのですが、その時にモデル事業として、こういう応援はがきを届けたいと提案したら、富津、木更津、君津、袖ヶ浦の4市の広域でそういう試みを実施するという事で、県が予算立てをしてくれました。

ところが、個人情報保護法に引っかかりまして、どこで子どもが産まれているかという情報が、民間レベルでは掴めないということがネックとして、ずっとありました。何とか行政が主導でやってくれたら、個人情報の問題も前に進めるかと思いましたが、なかなか出来ないでいました。今回情報をどう発信するかということで、いい機会をいただけたので、今日のグループ会議で提案させていただきました。

そこで今皆さんにお配りしたのが、具体的に一枚一枚のはがきを並べてコピーさせていただいた、第1報から第24報までのはがきです。現物がこのようになっていまして、送って下さいという人には、毎月送っていました。結構大変だったのが、1か月の子には1か月のはがきを送る、2か月の子には2か月のはがきを送る、一方で1か月のはがきを送った子には次の月に2か月のものを送り、新しく産まれた子には新しいはがきを送るという同時多発的に24通りのはがきを送ることになり、大変でしたがみんなで何とか工夫して

混乱が無いような形で、5年間位やりました。だけど、とうとうお金が底をつきまして、でも24通送るということに約束しましたので、足りないお金は私や他の保育園の園長が10万円ずつ出し合って、何とか約束した人には届けることができました。

今回、それを提案させてもらいましたが、そこで、今はメールの時代なので、メール配信する方法もあるのではないかと意見も出されたりしましたが、メールの配信の時代だからこそ、逆にこうやってはがきが届くっていうのも嬉しいんじゃないかということがあって、受け取った人の声、少数意見なのですが、返信が来ないのでどういう気持ちで受け取ってくれたのかが、なかなか掴みづらいんですが、何回か受け取っている人に声をかけて、フォーラムみたいなのをやったことがありました。そこで聞いた声によると、いつくるかと毎日ポストを開けて待っていてくれていたそうです。また、子どものアルバムの中に一緒に挟んでくれたりしてくれた人もいたそうですので、とっても良かったなと思いました。だけど、個人情報の問題でみんな届けることが出来ないのも、今回はこの子ども・子育て会議の関わりの中で出来ないかと思って、グループの中で何かやってみるということに可能性を見つけ出してみまして、そこをベースに話を進めました。その中で意見が出てきまして、これを持っていくとお店で割引になるという「チーパス」みたいな県でやっている事業の富津市版ができるのではないかとか。はがきの中にキーワードがあって、並べると何かが完成して、何かプレゼントがもらえるとか意見がありました。どうやったらこれが実際に動き出せるのか、少し詰めていって、すぐにやりたいことだけでも、出来る

だけ早くやれる、軌道に乗せていけることをやっていけたらいいねということが一つです。また、はがきの裏側には、24通りのその時々の子育てにお役立ち情報、育ちの姿みたいなのが書いてあります。はがきの表に宛名を書きますが、表の半分に情報を載せられるようになっていきます。今までは4市でやっていたので、4市の共通の情報を載せることはなかなか難しかったのですが、これを富津市でやると、色んな催しがいつありますよとか、こういうことをみんなでやりますけど、どうですかなどの富津市情報を流せるということで、ローカルな情報提供に繋がるのではないかと、グループの中から提案がありました。それをすぐやる、あるいはすぐやるにはどれだけの準備に時間がかかるのかということであれば、中長期の構想になるかもしれないけども、具体的な一歩として可能性を見つけていきたいと思っています。

もう一つ出会いの場を創出するということが、乳幼児健診の場を出会いの場にするということが前回の会議でも意見が出されましたけど、ひょっとしたらこの5階という会場が使いづらいかもしれないということで、もっと色んなところへ健診の場を移してやってやるということも、可能性や考え方としてあるんじゃないかということ、また、それから健診の場で、親子で遊べる出会いの場をとという意見もありました。それも専門家が例えば保育園の職員が来てやってしまうということではなくて、専門家じゃない人がそこに助っ人として、入れるという可能性はないだろうかということで、私の経験の話で、熊本県の町で、このような事業を町を挙げてやっています、そこでは中学生が乳幼児健診の遊び相手のお手伝いに入るということをや

っています。もし、そういうことがやれたら未来のお父さんお母さんを育てるということにも役立つのではないかと思いました。そういうことを真似てやってみたいと思いがあります。ただ、実際に学校が乳幼児健診に合わせた時間が取れるのかとか、逆に取れないとか色んなことがあると思いますが、中学生が忙しいならば、小学校の高学年ぐらいになれば、こういうことで遊び相手になるんじゃないかとか、じゃあ小学校にお願いするということが可能性がみつけれないかなという話が出たり、それは子どもだけじゃなくて、お年寄りもそういうところに出て行って、お年寄りも参加して、遊び相手になって、孫の相手をしてあげるとかの可能性はないのかという意見がありました。

もう一つですが、丸一日じゃなくても、ちょっとした支えが、応援があれば何とかやっていけるんだと、ちょっとした応援が出来ないかという意見がありました。それに対しては、市の方でファミリー・サポート・センター事業が国のメニューの中にあるんですけども、子どもをちょっと見てほしいという預け側と、ちょっと見てあげられるよと預かり側を引き合わせるという事業ですが、これを富津市でも事業計画でやる方向で検討されていますので、そこにちょっとした支援、一時利用支援を解消していくような試みが出来ていけるといいですねということで、討議は終わりました。

最後、学齢期について、お願いいたします。

私達学齢期のところでは、最終的には新たなコミュニティを作るという形になったのですが、それに行くまでには、ここに書いてある引きこもり、不登校の対策や子どもが同じ教育を受ける環境づくりなどについての話を再度していきました。この中で今何がすぐに

渡辺会長
岡村委員

出来るかということ、考えていくと、引きこもりについては、最初にどんな引きこもりなのかというものの内容を理解して、その振り分けをして、それについてできること、取り組めることをしていくのが一つ意見として出ました。そのためにはその予防をしていかなければいけない、予防が一番大事ということから、では、どんなことが出来るだろうかということ、新たに子ども教室などを作って、放課後などに地域の様々なお仕事をしている人達に協力していただいて、社会でやっている仕事の経験などをお話ししてもらったり、農家の方のお仕事を出来ることなら一緒に手伝ってみたり、富津市は海苔が有名ですので、海苔の仕事や漁師をやってみたい子がいたら漁師の仕事も手伝ってみたりすることです。私は、学童保育をやっていますので、学童保育での子ども達との係わりやお仕事はこういうことですよということをお話ししたり、体験したりしてみるのも、一つの繋がりになるのではないかという話になりました。

学校で引きこもりの対策をしていただいています。が、相談をするのに担任の先生だとちょっと出来ないでいて、養護の先生だと相談がしやすいという話も結構あるので、養護教諭の質と量の増やすことができればいいかなという意見もありました。

また、地域の団体が集まって、これはPTA、学校の関係者、我々のような学童保育などが皆さん集まって、色々な意見交換をして、もっと身近にすぐに子どもに手を差し伸べられる、引きこもってしまった子を何らかの形で、声をかけて、出してあげられるんじゃないかといった会議を、堅い会議になってしまうとどうしても意見の交換が決まった形でしか出て来なくな

	<p>るので、もっと緩やかに、こんなことだったら出来るんじゃないかとかお話が出来る場を作ってみたらどうかという意見もありました。</p> <p>また、新たなコミュニティ、地域の色々なコミュニティを考えるとということに話し合いがまとまりました。</p>
渡辺会長	<p>私は学齢期なので、学齢期の補足ですが、学齢期というのは子どもが育ってきて、自我が芽生えてくるんですよね。そうすると色々な子どもに課題が出てくる。その課題も一つではなくて、多種多様になってくるわけです。それを画一的な制度で解決するっていうのは、難しいですけど、それをどうやって多様なコミュニティの中で受け入れていくかということが議論の大半だったと思います。多様なコミュニティを創出することが、どこかに子ども達に接点を作っていくということ、例えばそれは区長さんだったり、PTAだったり、青少年相談員だったり、学童の先生だったり、養護教員であったり、そういう人達が情報を共有、交換できる仕組み、コミュニティづくりが必要なんじゃないかということが話の主題だったと思います。</p> <p>以上で3つグループ討議の報告が終わった訳ですけども、ここで、皆さんから自分の属していないグループで結構ですので、何かご意見、補足で付け加えたいことがあれば、仰っていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
松倉委員	<p>応援はがきは、4市でやったときに対象がどれ位の人数に配布して、予算はどれくらいかかったのでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>4市で200人位だったと思います。費用はみんな</p>

<p>松倉委員 鈴木副会長</p>	<p>自分のところから機材を持ち込むという方法もありましたが、県から補助金をいただいたので、パソコンとプリンターを用意させてもらって始めました。初期費用はかかりましたけど、後は郵送費で50円×24通×200組の金額です。</p> <p>富津市だけで計算すると1年で20数万円という計算をした記憶があります。人件費とか手間と考えると事務的な費用だけですね。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>松倉先生が妊娠期の情報伝達・情報発信というお話をされていましたが、それは私も応援隊としてやったときも話題としては出まして、お誕生おめでとうからではなくて、妊娠おめでとうから本当は出せるといいよねという話はしていました。ただ、それは難しい問題がありまして、順調に育たなくて死産になってしまうこともあります。そういう情報は我々には掴めきれないので、赤ちゃんがいないのに届くというのはいかがでしょうかという問題があって、どうしたらよいのだろうかという話をしていました。こういった点については、行政にご意見をいただいたら、死亡届等の情報は、わかるんじゃないかという話もありました。</p> <p>妊娠期に前回も言いましたがマタニティ講座というものを保育園でやっています、どうしたら妊娠期のお母さん方に本物の赤ちゃんに実際に触れてもらえることがやれるといいよねと話しておいて、実際には情報発信も上手くできなかった状態で、それは保健師さん頼りでしたので、そこら辺もいいやり方ができれば妊娠期というところも対応の仕方があるのかなと思います。</p> <p>先ほど情報を頂いたのですが、11月18日に佐貫</p>
<p>松倉委員</p>	<p>先ほど情報を頂いたのですが、11月18日に佐貫</p>

<p>鈴木副会長</p> <p>事務局・下間 事務局・圓川</p> <p>能城委員 鈴木副会長</p> <p>事務局・下間 能城委員</p>	<p>保育所の方で、マタニティ&ママ・パパのミニ講座を開催するとのことで、今回はベビーマッサージで1歳位までのお子さんが対象ですよという形だそうです。これはマタニティの方にもどうぞという形で、お配りしているとのこと。これは、単発なのか月1回なのか年に何回なのか決められて、進められているのか、把握は出来ていないのですが、ちょっとマタニティの方々を対象にしたものの、発信するはいいけど今はあまりいらっしゃらない。マタニティだけでやるのか、未就園児の取り組みに抱合せて情報発信をしていくのか、有効にお金を少なく出来ていけばいいのかなとは思いますが、今現在こういうこともやられているそうです。</p> <p>やってみて妊娠期の方がどれだけくるかは、蓋を開けてみてどれだけくるかはやってみてからの結果だと思います。</p> <p>これはどういう風に具体的に情報発信をしているのですか。</p> <p>市の広報紙位ですね。</p> <p>あと母子手帳を渡す時と、乳幼児教室で日にち前までは渡すつもりです。</p> <p>あとは、各保育所でチラシを配布しています。</p> <p>公立でやっている事業だから、私立の方には回って来ないのですよね。</p> <p>佐貫でやっているから、行ってみたらというのは出来ないですかね。チラシが届いていないので。広報に載っているからとは思いますが。</p> <p>すぐに届けます。</p> <p>ベビーマッサージも初めての試みなので、どの程度興味を持って申し込んで下さるか、やっぱり人数制限</p>
--	---

<p>鈴木副会長 能城委員</p>	<p>もありますので、ちょっと今は掴めない状況です。</p> <p>これは、定期的にやっていくと考えていますか。</p> <p>今後もし需要というか、要望が多ければ考えますが、今公立では年2回講座をやっているんですけど、それに年1回は当てても良いかなというところまでは考えているんですが。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>今保健師さんからお話があって、母子手帳を取りに来た時に、情報発信をするということですけど、今、刷り物がいっぱいあって、同時期に情報がいっぱいあって、こういうものがそういう中に一枚に紛れてしまうのではないかとということが問題にあると思いますが、その辺の伝える難しさというのはどうなのでしょう。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>この講座については、チラシを貰ったのがまだ1週間位前なので、まだ母子手帳をもらいに来る方もたくさんはいない状況です。もらいにきた方にはもし良かったら行ってみて下さいとか、あと教室が月の終わりの開催が多いので、来てくれた方にはどうぞとお渡しはしています。健康づくり課に直接申し込みをいただいているわけではないので、どの程度の方が行くと言ったかはわからないんですけど。</p> <p>ただ、改めて、私もこの会議を通して、仲間作りということについては、意識させてもらいました。乳児健診も乳児教室も保健指導が中心で、個別が中心ですが、そこに集まる方々が繋がるってということについては、事業の趣旨とは違いますが、スタッフが意識することによって、ちょっとずつそういうことが出来るかなということで、なるべく行ってもらいたいという気持ちで伝えています。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>どれくらいの頻度でこういうことをやるかというの</p>

事務局・圓川	<p>が一つあって、やっぱりある程度固まって妊娠、出産しているわけではないので、タイミングとしては、チャンスが何回かある内の自分の出られる場があるといいなと思います。</p> <p>これが毎月あるということでしたら、お知らせする仕方も違ってくるかなと思います。これはひとまず、この時にありますよということで、タイミングがよければ行ってごらんっていうことになりますけど。</p> <p>内容も毎回同じことをするのか、ベビーマッサージを中心にそこに行くのか、それともそういうことで行くのではなくて、仲間作りメインでそこにいくとか、いいお話が聞けるとか、それによってお母さん達も選択が変わってくるのかなと思います。</p>
鈴木副会長	<p>学齢期なのですが、不登校とか引きこもりのところに、やはり緊急性があったりするので、関心が向きますが、さっき私が提案させていただいたような未来のお父さんお母さんっていう育ちを市として支えていこうとするところに、小中高校生が子育てに関わる、まつわる機会、出番を作り出していくことが大事だなと思うんですよね。それをどうやって作り出していくかみんな考えていければいいな、考えていけないといけないなと思っています。前にここで話したのですが、自分が学校の評議委員をやらせてもらっている時に、校長先生に部活動で、優勝もしたいし、そういう目標もあるので、練習の時間も大事だと思うんだけど、部活動と学校に子どもがずっといるんじゃないかと、地域の中に出ていくということをどこかで考えられると良いなと話していました。学校側が週休2日制で土曜日が休みになる時に地域に返そうって話もあったのですが、地域がなかなかその受け皿になれないってこと</p>

	<p>がありました。それは、あの当時ずいぶん語られたと思うんだけど、それをあきらめていないで、地域で引き受け入れるってことをどっかで作りだせないのかなって思っています。例えば、部活動を週に1回、今日は地域クラブの日って言って、3時とか4時に地域に帰って行って、職場体験みたいな感じで、一年間、学童なら学童の手伝いに行くとか、何かそういうものって作り出せないのかなって、これは学校の先生と議論しなくちゃいけないものなのだけど、その位のことをやしないと、やっぱり小手先だけじゃダメなのだろうなって思っていて、それが中学校で無理なら小学校でという話になっていくんだろうけど、なんか3年生になったら受験が大変だったらやれないとか、2年生でやれないのかとか、1年生はやれないのか、そんなことを本気で議論してみたいと思いますが、どうでしょうか。</p>
渡辺会長	<p>菊地さん、いかがでしょうか。さっきそういう議論がちょっと出ましたが。</p>
菊池委員	<p>学齢期になってくると、色んな子が色んな鍵を持っています。最初に問題から入ってしまったので、この問題を解決するためにはどうしたら良いかという話し合いから入ってしまったので、結局は、色んな子が社会との接点というのが一番大事になってくると思います。色んなコミュニティがあって、その子の関わる部分を大事にしなくちゃいけないという話になったんですが、具体的に地域の中での関わり方をどうしたらいいかというのは、大切な視点だと思います。</p>
鈴木副会長	<p>皆さん関わることは大事だって言うけれど、具体的にどう関わる場面を作り出すかというところまでに踏み出せないでいたと思うので、私が言ったことが正解</p>

<p>齋藤委員</p>	<p>ではないと思いますが、一つの試みとして、そんなことがやれないだろうかと思うんですね。</p> <p>先ほど職場体験の話が出たのですが、金銭の授受が発生する可能性があるので、中学生となるとかなり難しいです。実際に職場体験を受け入れる側の立場からすると、正直な話、職場体験を受け入れるということは、体験をさせるというより、その人が入ることにより、その人を教育するという形になってしまいます。そして、企業側の負担というのは、もの凄く大きいですね。だいたい、1年に2日から3日ぐらい中学生を受け入れるっていうのがあり、それだけでも結構大変なのですが、それを1年間続けるとなると、職種とかが限られてしまうと思います。怪我をさせない、利益が上がらなくてもよく、また子どもの教育になるという職の選定から始めないと、なかなか職場体験というのは難しいような気がします。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>会社だってCSRという社会貢献事業ってあるじゃないですか、利益を上げるとか上げないとかじゃなくて、社会貢献事業としてやれることを考えていけないですか。</p>
<p>齋藤委員</p>	<p>私が言いたいのは、利益を上げるではなくて、職場体験に来た中学生に賃金を払うか、払わないかという問題です。ただ単に体験だけでということであれば、もう少し違う方法を考えられた方が良いのではと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>さっきもその話は出たのですが、職場体験っていうのは、枠組みがどこまでなのかっていう話にもなるし、逆に職場で受け入れるっていうのが色んな事情で出来ないのであれば、地域の先生みたいな形で、職業を学校に行って語るみたいな事業もあるんですけど、限ら</p>

	<p>れた中ではなくて、間口、門戸を広げて、色んな人に出てもらう。農業者にやってもらうとかいろんな話が出ました。やっぱり絞り込むのではなくて、今我々がここでやれることは、色んなテーマ、提言を出して、その中で出来ることを始めたらどうですかというスタンスでいいと思います。だから、それぞれの意見をそれぞれ出すと、それでこれは良いとか悪いとか、これじゃなくてはいけないとかじゃなくて良いと思います。それは両論の出し方ということでいかがでしょうか。</p>
岡村委員	<p>職場体験の話は、最初に私が、引きこもりでお家にいるだけではなく、学校に行けないのであれば、ちょっと違う形で、学生のアルバイトのようなものはどうなのではないかという話から職場体験というものもあるんですよという話になり、こういう話になって行きました。自分の中で今はまだイメージしか出来ていないんですが、本当にそういうことが学校と連携して出来るのであれば、週に何回か交代で、うちの学童でも全然構わないので、いきなり狭いところに10人も20人も来られたら難しいですが、1日3人位の生徒だったら、いつでも、そういった形で経験していってもらって子ども達と一緒に勉強したり、遊んだりして、自分達の勉強にもなるんだよということとかの受け入れは考えています。</p> <p>他のお仕事でも、これだったらちょっと出来るかなとか、そういうものも、これから色々考えてみて、そういう方向に向かって考えてみてはいかがかなと思って、今回色々話してみました。</p>
鈴木副会長	<p>賃金が発生することが障害ならば、賃金じゃない方法を考えるってことで可能性を作り出したいなって思</p>

	<p>うし、あるいは、今、中学生は、スマホとか携帯を持っていて、そのお金を親が当たり前払うってことになっているんだけど、自分の使う携帯電話位稼げよって、一方ではあるんですよ。だからそういう労働契約として、賃金を払うとか払わないとかではなくて、何かそういうことをやれる方法というのは無いのかって、見つけたいなっていうのはあります。世間や社会を知らないでただ学校での勉強だけをして、いきなり大人になってさあ地域のためになりなさいとか、そういうことをいきなり言われてもなれる訳なくて、地域の中に少しずつ馴染んでいくというか、地域のことを知っていくってことをどこかでしないと、富津市が住みやすいとか、安心だとか、余所から来てくれなんて街にはとてもなれないと気がします。</p>
渡辺会長	<p>他にいかがですか。それでは、色々な意見が出ましたので、これを最終的には取りまとめして、市長に報告という形で出すということになっていると思います。色んな意見が出ましたので、それをまとめて、事務局と私と副会長とで意見を総合して取りまとめして、市長に報告する形としてよろしいかどうか。ご議論いただきたいと思います。</p>
鈴木副会長 渡辺会長	<p>もちろんその前に皆さんに見てもらおうんですよ。それはもちろんです。こんな形ですという案という形でまとめた時点で、もう会議は出来ませんので、郵送という形になりますので、郵送で確認していただいて、いついつまでに異議が無ければ、それを出しますという形になると思いますが、そのような形でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。

渡辺会長

ありがとうございます。今ですね、色々な意見が出ましたけど、非常に具体的な意見と、将来の子ども子育ての基本の理念になるんじゃないかなというような幅広い意見をいっぱい出していただきました。特にすぐに出ることがいっぱいあったと思います。また、思いもかけない発想があったり、非常に有意義だったと思います。ここで一つだけ、ある程度この会議としての方向性を共通の認識として持ちたいなと思っていて、今日のグループ討議のまとめの資料の最初に、今後のテーマとして、「出会い」「コミュニティ」の創出、もう一つとして「情報発信の充実」ってことがありました。これは、去年の会議からずっと出てきたことだと思います。私はこの会議に、去年の5月から参加させていただいて、議論の内容を伺っていて、鈴木副会長が一貫して仰っているんですけども、「地域との結びつき」ということが基本にあると思います。その辺がこの課題に対する我々の答えになってくるんじゃないかと感じています。

そこで、この会議で鈴木副会長から当初から主張していた思いがあると思いますので、ここでお話いただいて、それを皆さんの共通の認識として持っていただければと思います。その共通の認識に基づいて、今回の報告書を市長に上げようとするのが、私の希望です。皆さんにお話を聞いていただいて、それから案をまとめることとしたいと思います。

では、お時間をいただいて、鈴木副会長からお話していただきたいと思います。

鈴木副会長

この会議の中では、随分発言もさせてもらったので、私の声をいっぱい聞いてもらいました。ただ、みんなにも一緒にもっと語ってもらって、その中から一緒に

作っていくということを丁寧にやっけていかないといけないなって思って、それは自分への反省でもあります。

この会議の当初の資料の中で、富津市の次世代育成支援行動計画「いいじゃないか！ふつつ」というものを資料としていただきました。その中で、基本的な目標、柱が立てられているんだけど、その柱の中に「つながるっていいじゃないか！」という柱があります。それって、みんなが願いとして持っているものだと思うんですけど、思っているだけじゃダメだと思います。具体的に「つながるっていいじゃないか！」って思ったら、どういう風に繋がるってことがやれるだろうかを絞り込んで、あみ出していかないと、理念倒れに終わってしまう。想いだけで実際にそこから進んでいかないことを、今までやってきたんじゃないかなと思います。そういう意味では、今の時代や社会は、富津市だけのことじゃないんですけど、やっぱり世間一般が、専門なことは専門家に任せておけばいいんだと、専門以外の方は部外者になって、できるだけ関わらないようにして、自分には関係ないことだと思っている社会が今だなと思います。でも、昔のようなコミュニティは、なかなか取り戻すことは出来ないんだけど、何かこういう高度経済成長をくぐって、人の関係が見事に壊れてきたけれども、震災とか津波の被害とか経験すると、改めてコミュニティというものも大事だということが見えてきた中で、どうやってコミュニティとか人の繋がりとかを与えられた条件の中で作り出していけるのかということが、大きな意識として、課題意識として持っていく、持ち続けて、具体性に向けて何か取り組むよう作り出していかないといけないかなと思います。

<p>渡辺会長</p>	<p>とはいえ、この会議の前半はほとんど仕組み作りに時間を取られましたので、後半の2回の会議しか出来ていない中で、何がそこで報告書として書き込めるのかということでは、まだまだ時間が足らなかったというか、時間不足のところがある中で、市民委員会でも出された、みんなで見守るんだということ、でも、じゃあみんなで見守るとはどういう見守り方なんだろうということ明らかにしていくということを考えていくこともしていかないといけないので、繋げていくとか、色んな人の関わりを作っていくとか、ということ 키워ワードにしながら、今日出された具体的な提案をすぐやれるか、ちょっと時間が必要なのかを含めて、織り交ぜながら目標として、課題意識として、何か報告書としてまとめていけるといいのかなという思いです。</p> <p>ありがとうございます。今の話がこの2年間で一貫して皆さんの頭の中にあったテーマであったんじゃないかと私は感じています。あえてここでお話していただいたんですけど、今の話のような内容を踏まえて、皆さんの頭の中で共通の認識を持って、提言としてまとめたいと思っていますので、是非ご理解をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、議題については、これで終了とさせていただきます。</p> <p>4 報告</p> <p><学童保育に関するアンケート調査について></p> <p>報告事項について、事務局からお願いいたします。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>報告事項について、事務局からお願いいたします。</p>

事務局・渡邊	資料2について、説明
渡辺会長	○質疑・意見 今の事務局の説明について、ご意見、ご質問はございますか。
鈴木副会長	みなと幼稚園に事業委託というのがあるのかもしれないけど、何でみなと幼稚園に調査をしたのかというのが、一つわからない。学童を利用したというのは保育園の側に多いと思うので、中央保育所には何故いかなかったのか。
事務局・渡邊	こちらの調査は、小学校にかけております。 みなと幼稚園に在籍している人達からは、ニーズはあるけれども、実際に小学校に通っている子ども達のニーズがどの程度あるのかということがあったので、調査をしました。もし、学童をやっていただく場合は、運営等についてご協力出来ないかということのみなと幼稚園さんと検討しているところです。
事務局・下間	みなと幼稚園さんが、保護者の方から学童保育の希望があるとのことで、やるということを考えていらっしゃるということをお話いただきました。やっぱりやるには2、3人では運営が大変なので、実際にやった場合、どの位子どもが集まるんだろうかということをお話いただきました。市がアンケート調査を実施したところで、利用したいと答えた人が10人程度ですので、まだわからないと答えた人を含めた中で、みなと幼稚園さんがどのように判断されるかは、今後検討されていると思います。
鈴木副会長	自分は保育園をやっているんで、保育園を卒園したときにやっぱり、保育園では夕方6時位までみている

訳ですけど、学校に入った途端に、特に1年生は早く終わるんですけど、仕事を一度そこで退かれる方も実際にいるんですよ。そういう環境が変わることのギャップを学童でどういう風に埋めていくかということがあるのですが、現実、これまでは、ずっとこういうことをやってきて、学校に上がったならそういうものだという前提が、一方であって、学童という文化を新しく入れていくことも、簡単ではなくて、時間のかかることでもあるなと思って、みんなの意識の文化の中に入れていくことが必要であると思います。

それと昔のことですが、うちの保育園の保護者が学童をやって欲しいと頼みに来たというのが富津市での始まりだったと思うんですけど、市でちょうど制度を準備して、始めたところだったというタイミングもあって、始めたということもあるんだけど、うちの保育園を利用していない子が入りにくいということがあって、保育園でやっていたので、それはみんなにとって困ったことだろうなと思って、学校に入る前に民家を借りたりして、うち以外でやっていただいて、どこを卒園しても入れるというように、気遣いをしました。ということがあったので、みなと幼稚園さんがやられるというのはいいことなのだけでも、みなと幼稚園の卒園児じゃない子達が、入れることを配慮してあげられるといいなと、経験上から思います。

井上委員

隣の学区の天神山小学校の子達も希望すれば入れるんですか。

岩瀬委員

はい、そうです。

井上委員

学区は、湊小学区だけじゃなくて、竹岡とか金谷とかの子どもも希望すれば行けるんですか。

岩瀬委員	はい。幼稚園までの今送迎をどうするか、人数が集まれば、バスとかで移動とかも出来るんですけど、人数が集まらないと、料金等も考えなくてはいけないので、それを考えているところです。
井上委員	せっかくアンケートする時に、湊小だけでなく、天羽地区全部にしてみたらもうちょっと数がわかって良かったかもしれないですよ。金谷とか竹岡とかは小さいからそこで作るのは、すごく大変ですよ。だけど、ニーズというのは、絶対あると思うし、そっちの方まで含めてやったら、みなと幼稚園の人達も計画が立てやすかったのかなと思います。もったいないなと思いました。
渡辺会長	他にいかがですか。よろしいでしょうか。この件につきましては、これを参考にして、みなと幼稚園さんの方で検討していただいていると思うので、それを見守っていただきたいと思います。
鈴木副会長	準備が大変でしょうけど、よろしく願いいたします。
渡辺会長	それでは、他にご意見、ご質問等が無いようであれば、事務局から連絡事項はありますか。
事務局・下間	子ども子育て委員の皆様は任期は2年間で、今回の会議がこの委員のメンバーで最後の会議となりますので、健康福祉部長磯貝から、一言お礼のご挨拶申し上げます。
磯貝健康福祉部長	部長挨拶
渡辺会長	他に何かありますでしょうか。他に無ければ、以上を持ちまして、子ども・子育て会議を終了いたします。長期間に渡りまして、皆様に真剣に討議していただき

ました。有意義な、内容のある意見がまとめられたと
考えております。ご協力ありがとうございました。以
上で終わりにしたいと思います。

閉会